

令和元年度(2019年度)高等学校OPENプロジェクト実施報告書(2年次)

研究指定校	北海道羅臼高等学校	教育局	根室教育局
1 研究主題	地域連携による持続可能なふるさと知床羅臼における人材育成 ～さまざまな地域資源を活用した郷土愛の醸成～		

2 研究実践内容	
月	実施内容
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・水産教室「開級式・記念講演」(13日) 漁業後継者の育成を目的とした学校設定科目である「海洋生物」において、第3学年生徒が参加し、開級式及び記念講演を実施した。記念講演では「羅臼町を支える産業の担い手」と題してトークセッションを実施した。 ・水産教室「ロープワーク」(20日・28日・6月3日) 「海洋生物」において、羅臼漁業協同組合の協力のもと、ロープの結び方や船についての知識を学んだ。3回目は羅臼港において、実際に漁船や漁網で使われている結び方を見学した。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・水産教室「ダイビング講習」(13日・17日・24日・7月1日) 知床ダイビング企画と連携し、ダイビングライセンスを取得するための講習を実施した。 ・インターンシップ(19日・20日) 「総合的な学習の時間」において、第2学年生徒全員が、羅臼町内の21の事業所においてインターンシップを実施した。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ発表会(3日) 「総合的な探究の時間」及び「総合的な学習の時間」において、第1学年生徒参加のもと第2学年生徒によるインターンシップ発表会を実施した。 ・キャリアプランニング(18日) 第1・2学年を対象に、進学・就職説明会を実施した。 ・中高一貫による生態系学習(19日) 総合的な学習の時間において、第3学年生徒を対象に、斜里町岩尾別台地に巡検し、知床の歴史と自然について理解を深めた。 ・水産教室「ウニ種苗センター見学」(22日) 海洋生物(学校設定科目)において、羅臼漁業協同組合の協力のもと、ウニの養殖方法について学んだ。 ・中高一貫クマ学習(22日) 「総合的な学習の時間」において、第2学年生徒を対象に、知床財団の職員による「クマ学習」を実施した。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・創作料理プロジェクト「メニュー開発」(22日) 創作料理プロジェクトのメンバー6名により、過去にプロジェクトで開発したメニューについて、見直しと再検討を行った。

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・水産教室「ダイビング実習」(8月26日・2日・12日・17日・24日) 知床ダイビング企画と連携し、履修生徒がダイビングの実技を学び、ダイビングライセンスを取得するとともに、海洋における救助方法について学ぶことができた。 ・創作料理プロジェクト「ハッピーキャンプ」(14日) 町内キャンプ場でのイベントに出店した。 ・創作料理プロジェクト「漁火まつり」(21・22日) 羅臼町産業祭に出店した。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・水産教室「ブランド化・マーケティング学習」(7日) 本校で開発した創作料理のブランド化について、株式会社ケミクル代表・芦崎拓也氏より御指導いただいた。 ・中高合同講演会(8日) 知床未来中学校と本校の全校生徒を対象に、日本キリバス協会代表理事ケンタロオノ氏による「だれ一人取り残されないために＝私の国キリバスと地球温暖化＝」と題する講演会を実施した。 ・創作料理プロジェクト「知床アウトドアフィルムフェス2019」(20日) 斜里町ウトロにある知床自然センターに出店した。 ・水産教室「鮭に関する実習」(21日) 「海洋生物」において、標津サーモン科学館の協力をいただき、鮭の採卵、受精を実施した。 ・らうす高校生議会(21日) 第2学年生徒が現代社会の授業において、地域の課題解決に向けた提案を羅臼町議会で行った。 ・浜中学報告会(26日) 第3学年生徒が「知床学」を報告し、霧多布高校と交流した。 ・水産教室「鮭とば加工実習」(28日) 「海洋生物」において、羅臼漁業協同組合の協力をいただき、鮭とばの加工を体験した。 ・中間発表会(31日)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・水産教室「観光・体験プログラム」(5日) 海洋生物(学校設定科目)において、羅臼に観光客を誘致する手立てについて議論を行った。 ・巡視艇「てしお」乗船(8日) 海上保安業務について理解を深めるとともに、地域の基幹産業である漁業と密接な関わりについて学ぶことができた。 ・水産教室「郷土料理実習・加工品作り」(11日) 「海洋生物」において、羅臼漁業協同組合女性部の協力のもと、タラとイカを使った郷土料理の調理実習を実施した。 ・水産教室「プレゼン学習」(18日)

<p>12月</p> <p>2月</p> <p>3月</p>	<p>前知床羅臼町観光協会事務局長の池上美穂氏により、知床及び根室管内の魅力をどのように発信していくかという講話をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創作料理プロジェクト「知床物産展」出店（23日～24日） 東京都世田谷で開催された知床物産展に出店した。 ・ 羅臼町ユネスコスクール研究発表会（7日） 羅臼小学校において羅臼町の小・中・高の実践発表会を実施した。 ・ 対馬学フォーラム2019参加（7日） 「野外観察」履修者の2名が参加し、成果発表を行った。 ・ 水産教室「閉級式」（10日） 「海洋生物」の閉級式及び記念講演を全校生徒対象に実施された。羅臼町地域おこし協力隊 大石陽介氏より「羅臼のふつう、みんなのふつうはワールドクラス」と題して講演をいただいた。 ・ 進路報告会（18日） 第3学年生徒による、第1・2学年及び知床未来中学校第2学年生徒向けの進路報告会を実施した。 ・ 創作料理プロジェクト「知床羅臼グルメフェア」（22日～3月31日） 過去に開発したメニューを羅臼町内の飲食店で提供し、名物化を目指す試みを行った。 ・ 創作料理プロジェクト「国際交流事業」（22日・23日） 観光船乗り場にて、インバウンドに対応した実践販売を実施した。 ・ ライフプランニング（26日）9月より全14時間実施 第1学年生徒が自分の就きたい職業について調べ、発表した。 ・ 生態系学習（5日） 知床ネイチャークルーの協力により、ワシの生態系について学習した。
<p>3 地域みらい連携会議の開催内容</p>	
<p>第 1 回</p>	<p>令和元年5月29日（水） 14：00～15：30</p>
<p>出席者</p>	<p>三浦校長、宮前委員、高野委員、高橋委員、福田委員、今泉委員、竹守委員、下柘柵委員、庄司委員</p>
<p>協議内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の趣旨、実施計画について説明 ・ 各種事業について協議
<p>指導・助言を受けた内容</p>	<p>(1) 創作料理プロジェクトについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 料理コンテストの結果にこだわらず、商品開発を継続することが大切である。パッケージを含め、料理の見せ方を工夫することが課題の一つになる。 ・ 商品開発について、地域の企業といかに連携を図っていくかが課題である。 <p>(2) インターンシップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生と大人が地域の課題を見出して解決に導くプロセスを盛り

	<p>込んではどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型のインターンシップの在り方と、それを支える地域の取組が必要となる。高校生が各事業所の課題を聞き取ってファイリングしてみてもどうか。
第 2 回	令和2年2月20日(木) 14:00~15:30
出席者	三浦校長、野田委員、今泉委員、竹守委員、福山委員、庄司委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の各事業について報告 ・来年度事業について協議
指導・助言を受けた内容	<p>(1) インターンシップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所から来てほしいと言われるものにしてほしい。 ・実施する職種が広がっているように思われる。 ・これから設立される企業、新たな形態の企業が羅臼町に進出してくる。これらの企業とパイプを繋げていくことが求められる。 <p>(2) 水産教室について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の講師を有効に活用し、それぞれのプログラムにうまくマッチングさせている。 ・「獲った魚が流通し、食卓にあがるまで」をイメージできる事業となるようにしていくことが大切である。 <p>(3) 高校生議会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の行政視察を実施してから質問を考えてみてはどうか。地に足のついた質問になると考えられ、質の高い議会となる。 <p>(4) 創作料理プロジェクトについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、経営の視点からの販売、商品開発することを期待している。
4 研究の成果と課題	
<p>(1) 目的の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本事業を通して、主体的に地域を愛し、元気づけようとする心が醸成されている。 ● 地元の企業や団体とは良好な関係を築きあげることができており、非常に協力的に取り組むことができている一方、地域を活性化させるための具体的な手立てや方法について、より活動が深まるような方策等、案を具体化させていく必要がある。 ● 課題解決型のインターンシップの在り方を模索し、生徒の自己実現に向けたキャリア教育の充実に向け、地域企業の理解を深める必要がある。 <p>(2) 目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 羅臼町教育委員会主催の「知床学検定」の全校生徒における受験者の割合が、平成30年度32.6%から令和元年度26.3%と減少しており、具体的な数値目標を設定するなどの対策を講じる必要がある。 ● 地元への定着率向上に向けて、就職希望者のうち、地元への就職率が平成30年度の45%から令和元年度は31%に下落しており、特に女子が地元から離れる傾向が強まっている。 	

(3) 実践研究の規模

- 海洋生物とフードデザインの合同授業を実施することができた。このような教科横断的な連携については、さらに拡充していきたい。
- 中学生との合同講演会や、中学2年生を招いての報告会など、連携を図った取組となっている。

(4) 研究成果の普及

- 毎月、学校だよりを発行し、町内全戸へ計2000部配布することにより、研究内容や成果を広く地域に紹介することができた。
- 対馬学フォーラム2019に参加し、学習の成果を発表した。
- 羅臼町ユネスコスクール研究発表会において、地域の方々に学習の成果を発表することができた。
- らうす高校生議会を実施し、町議会に対し、高校生の視点から地域の課題解決に向けた提案を行うことができた。

(5) 実践研究内容

- 羅臼昆布と真昆布のグルタミン酸の調査研究
- 海洋生物履修生2名が潜水士の資格取得

(6) 地域みらい連携会議

- 本事業の実践における成果と課題に係る助言をいただき、3年次の取組に向けての方向性を共有することができた。
- 3回予定していた会議が2回の開催に終わった。事業の進捗状況の報告及び評価を行う場を適切な頻度で設けたいが、時期の設定が非常に難しい。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

学校全体として、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながった取組となった。

(評価した理由)

- ・「知床学」に関する学校設定科目を設置するなど、地域を理解し、地域を愛する教育内容をとおり、北海道の1次産業についての理解を深めることができたから。

(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

- ・創作料理プロジェクトにおいて、町の漁業組合女性部などとの協議が活性化し、過去に開発したメニューの中から町の名物にしようとするなどの動きが生まれ、町内飲食店が提供するグルメフェアを開催するなどの活動をとおり、成果や課題の共有をすることができたから。

- ・らうす高校生議会を開催し、高校生の視点から地域の課題解決に向けた提案を町に行くなど、羅臼町の課題を解決するための方策を自ら提案できるような取組を実施することができたから。

(3) 【評価の観点】生徒の主体性について

(評価)

生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。

(理由)

- ・創作料理プロジェクトメンバーへの加入は任意であるが、それぞれが課題意識をもって取り組んでおり、自ら活動内容をSNSで発信するなどの姿が見られるから。

(4) 【評価の観点】地域課題の解決状況について

(評価)

地域課題を把握し、取り組んだだけに留まっている。

(理由)

- ・らうす高校生議会において、地域課題解決に向けた提案をすることができたが、事前学習を工夫するなどして、内容に深まりをもたせる必要がある。
- ・創作料理プロジェクトにおいて、開発したメニューの名物化に向けた取組は始まったばかりであり、評価の方法を工夫しながら、地域とともに課題を共有し改善を図る必要がある。

6 今後の取組

- ・らうす高校生議会において、生徒自らが主体的に視野を広げ、多くの部署への質問・提案となるようにしていきたい。
- ・創作料理プロジェクトの開発したメニューの名物化に向け、評価の方法を工夫しながら、地域とともに課題を共有し改善を図りつつ、PR活動の充実に努めたい。
- ・運営指導委員会に、課題解決型のインターンシップの効果的な実践例について御教示いただきたい。

7 参考資料

(1) 「らうす高校生議会の様子」 (現代社会)

生徒が議員となり、町長や各担当者とこれからの町づくりの方策を審議した。生徒にとっては、町政についての興味・関心を持つきっかけとなった。さらに、議場で議論を交わしたことで、これからは自分たちが主体となった町づくりを推進するという意欲を高めることができた。また、地域の課題解決に向けて、主体的・対話的に取り組むことを通して、地域の活性化及び人材の育成に貢献することができた。



北海道新聞夕刊
令和元年10月24日

(2) 「創作料理プロジェクト 名物化に向けた取組」

創作料理プロジェクトでは、過去にメニュー開発したものを羅臼町教育委員会や羅臼漁業協同組合の支援と協力をいただきながら商品化した。地域に根ざした町おこし活動として、「らうす大漁焼き」を羅臼の名物にしようと、観光客や地域の方々へ販売している。

